

(学力向上委員会)

【自分から勉強する子に育てる言葉】

①「～しなさい」と言う言葉をできるだけ言わないこと

「自分で考え行動することを、私は応援したい」というメッセージを発信することで、子どもとの信頼関係を築くことにつながるでしょう。

②時には「あなた（子）が困るでしょ」ではなく「私（親）が困るでしょ」と言う

まず子どもの行動を明確にし、それによって「私」がどう困るのか具体的な影響を伝え、さらにそれが原因で「私は嫌な思いをする」と伝え、子供は納得して自分の行動を変えようとしています。

③間違いや失敗を肯定する言葉をかける

答えをせかすと、子どもは、自らの頭で考える余裕を失い、「試行錯誤」をしなくなります。子どものうちは失敗すればするほど賢くなれると教えてみてください。失敗は恥ずかしいことではありません。「行動すること」の大切さを子どもに伝えて、怖がらずにひとまず動くことを意識させてみてください。

④負の言葉を正の言葉に変換して声をかけてみましょう

同じ物事、対象でもそれをポジティブにとらえるか、ネガティブにとらえるかで、その後の取り組みが変わってしまうことがあります。別の側面から観察してみると、思わぬ肯定的な面がうき彫りになることがあります。子どもへの言葉かけの際に少し工夫してみてください。

⑤子どものやる気を育てる言葉

「自分の長所をできるだけ挙げてごらん」と、できるだけたくさん長所を認識させることがその子の自信につながり、その子を輝かせることになります。

⑥結果ではなく、努力を評価して褒める言葉

得意な教科を褒めることで子どもは自信を持ちますが、難しいのは苦手教科に対する言葉かけです。行為・プロセスに着眼し、後押ししてやるのが大切です。また、毎回同じ言葉で褒めていても、慣れてしまうので、第三者が褒めていたことを伝える形で褒めると、子どものやる気を喚起できます。

参考：『勉強しろ』と言わずに子どもを勉強させる法 小林公夫